

平成 28 年 9 月 18 日（日） 幸校区 タウンミーティング 参加者 49 名

【地域の課題】

市民：地域福祉と地域医療の充実についてお尋ねする。私たちが生活する幸校区の高齢化は和泉市全体より大きく進んでおり、約 60%位高齢率が進んでいる。高齢者一人暮らし、高齢者世帯も多く、地域の高齢者を支え見守る仕組みづくりとして地域として取り組んでいる所。現在は市営住宅の空き店舗を利用して、高齢者の居場所づくりを行政の支援で取り組んでおり、今後とも継続した支援をお願いしたい。この幸校区では、5、6 年前までお年寄りの孤独死が多かったが、これをなくそうという思いで、山手郵便局の近くの 1 号店、2 号店を下の方でということで、いずみ第一団地の集会所を利用して、市に提出させて頂き約 6 年前に、待っているのだが、この 1 号店も 2 号店もこれから継続して進めて行ってほしいし、又市長にもお願いしたい。又地域医療においても和泉診療所の指定管理として、継続してきた事業をしてきた地域の方々にとっても大事な施設となっている。今後とも引き続き診療所の温存、継続した事業をお願いする。この 9 月 2 日も診療所の先生に来ていただき、30 分位のスライドで診療所の様態を訴えていただいております、こうした取り組みも地域として行っている、地域になくしてはならない診療所。聞けば診療所もしんどい立場で運営しているということで、先生も必死に地域に訴えておられる。私も伯太校区の池上町にも、診療所のこれからのあり方も考えてもらうように、市長にお話ししますということで話をしているし、高齢者が診療所へ行けない時は訪問する仕組みも考えて頂きたい。

市民：市営住宅の建て替えと施設のあり方の 2 点。市営住宅の建て替えについては、この地域で建てられたのは 1970 年位からで、最も古い丸笠団地はもう 50 年近く経つ、その次の和泉第 1 団地が 42 年位経つ。当時は細い道で、地域の路地が密着した町で下水関係も通らず、病気の問題等もあって、それをクリアしようと、役所の方々とともに市営住宅を改良住宅に建て替えた歴史がある。当時も、生まれ変わる町ということで、この街の形を変えていく、ということで取り組まれたと聞いている。今回、市営住宅の建て替えで町の形が変わってくるととらえていて、せっかく町の形を変えるのだったら、住む私たちの意見を聞いてくれるような住み良い町にしたいと考えている。市との協議もお願いしたい。南部はかなり開発が進み、北部がまだまだで、この間府中が駅前再開発し、次に北信太、信太山と。北部の町の再開発の入口がこの幸校区になってほしい。市営住宅建て替えで、同じもの建て替えるだけでは面白くない、建て替えだけで終わっていいのかということもあり、新たな街を作るということで建築住宅が担当ですが、全庁的な取り組みとして市長が先頭にたって進めて頂きたい。課題として、市営住宅が建ってきれいになっても、条件があって、たとえば所得の関係で高い人は入れない、一人世帯では入れない等で、若い世代がどんどん出て行かないといけない。若い世代がないわけではないが、若い

世代が住めない状況。町がいやだと出ていくのではなく、住めない環境になってしまっていて、幸小学校の児童数が 100 人を切るかも知れない状況にある。若い世代がこの街にどのように住めるのかということ、今の市営住宅が難しいということになると新たな町としてどういうことができるのかということ、我々も汗をかきながら考えながら案を出しながら一緒にしていきたいと思う。

それと地区内施設が大事であり、こどもの数が減っていくと、青少年センターがいらぬのでは、幸小学校も不要ではと言われてたりするが、そうではなくて新たな住民、出て行った若い世代が帰って来てここで子育てする人が増えてくるわけで、減るからつぶすではなく、これからどのようにしてこの施設を新たな形で存続させていくか、発展させるかということを考えていきたい。青少年センターだけでなく、人権文化センター、にじの図書館、和泉診療所の問題もあり、それらも合わせてお願いしたい。このまちに住み続けたい、誇りに思うような町にしていかなければと思うので、市の協力で一大プロジェクトになると思うが、よろしくお願いしたい。

市長：非常に大きな事業になると思う。和泉市はこれから公共施設の建て替えが 20 年位に集中している。耐久年数が 20 年以内に来る。費用は、試算で 600 億円位で、その 7、8 割が、住宅、小中学校の建て替えで、600 億円すべてを 20 年間でというと毎年 30 億円位になり、今までの計画では難しい。何らかの形で財源を、建物を高くして余った土地を分譲していくということを考える。

住宅に関しては、和泉市内で使っている市営住宅は 2,100 弱で、その中で改良住宅は 75%位で、かなりウェイトが大きい。この改良住宅をどうしていくかはこれからの和泉市の大きな課題で、地域コミュニティを醸成しないといけない。皆様と住み続けられるまちづくりにしていけないといけない。今、富秋中学校区、池上小学校も生徒数が減り、200 人を切りそうで、幸小学校は 100 人を切りそうな状況で、議会の方でも 2 つの小学校と 1 つの中学校在るのか、これは統合が出来ないのかと言う意見もあり、我々が一方的にどうするとかできないが、1 つの例として、南松尾はつがの学園、一緒にするというのは決まっていなかった。南松尾は 1 小学校、1 中学校で、母校を残してほしいという地域の意見もあった。最終的には皆様方で決めてくださいと。我々は一つにした方が教育環境がいい、こどもが 1 年生から 6 年生まで同じクラスだとコミュニケーションが取れているが、社会性が備わっていない。気の知れた友達ばかりで、高校に入ってからよそのこどもと仲間に入っていくのが難しいこどもになってはいけない。こうしたことも含めトータルでどうするのかということで、保護者は移転新築でと。そこで南松尾はつがの学園という名前に最終的に決定された。富秋中学校校区についても皆様方が決めて頂き進めたいと考えている。教育環境が整っているところが若い方に魅力になっているのだろう。教育環境が整っている所には来る。

今、はつが野で分譲している会社は、南大阪始まって以来の小中一貫校が出来る

どうたい文句にして、我々は少し心配しているが、こどもの数を計算して学校を作るのだが、普通は1家族に0.5人が上限で、国の基準でそれ以上大きな学校は作れないが、2,000世帯で0.5人だから1,000人位の小学校から中学校のこどもがそこに発生する。それが、あそこはこども発生率が1.5になっている。2,000世帯で3,000人位の小学校から中学校のこども、例えば小学校だけで2,000人になるような。子育て世代に人気がある地域は、やはり教育。もちろんそれだけではなくてコストコ、ららぽーとも近いし、インターチェンジにも近い、環境がいいとか。教育を重要視しているという所がある。

住宅の建て替えと言うのはすぐにはいかない。やはりじっくり10年20年かけていかないといけない。1つのところを作ってまたつぶして、建てて移って頂く、引っ越してまた引っ越すという非効率的なことはできないので、一つの空地を作って、そこに住宅を建てて引っ越して頂いて、1回の引っ越しでできたらと考えている。これは我々の一方的な考えではできない。

高齢化について、和泉市は大阪府内で一番若い市だが、高齢化の市でもあり、対策が必要。高齢者だけの世帯が増えていて、和泉市の13件に1件が65歳以上の方だけのご家庭で、17件に1件が65歳以上だけの一人家庭。この幸校区では、阪和線沿線の方の高齢化が進んでいるので、もう少し多いかもしれない。その中で高齢者の方の買い物難民、コミュニケーションがとれなくて1人で部屋に閉じこもっているなどの問題の対策を取らなければならない。認知症対策で、認知症カフェを市内で9か所設置している。地域で守る体制が必要。医療に関しては、和泉診療所で、なかなか行政だけで医師の確保もできなかった。今は指定管理ということで、生長会、府中病院に担っていただいているが、毎年赤字。これは5年契約で、5年後また募集するが、応募がなかったら大変なことになる。その時は条件も緩和したり助成をしたりとか、介護をやりたいという希望も出されているので、十分、生長会や医療法人と情報交換をして途切れることのないようにしたい。訪問リハビリテーションや訪問看護もこれから行っていく、そういう協議も進めさせて頂く。

にじの図書館について、これについてどうするか。北部リージョンセンターが出来たら閉鎖と決まっていたが、図書館については和泉中央には和泉シティプラザ図書館、西部については和泉市立図書館がフューラル和泉に、南部リージョンセンターの図書室、北部リージョンセンターの図書室というように、それぞれ置いており、1か所に特別に二つの図書館というのは地域の平等性から難しい。その中でにじの図書館は和泉市全体として特別な役割を担っているということであれば残せる可能性はある。その辺を話をしながら、今後どうするか決定させて頂きたいと思う。

市民：特に診療所はよろしくお願ひしたい。

市長：160人から200人近くの方が毎日利用されていて、結構来られてるんです。赤字の割にはよく利用されていて、非常に地域に重要な機関と認識している。

【市長との意見交換】

市民：建て替えをすれば新しい町ができて、よくなると夢のような話を伺っているが、実際どれくらいの年月を想定されているのか。10年20年かけてじっくりやっけていかないといけない。その間、今住んで居る団地はどうするんです。建て替えがかかって、さっさと移ったところはいいが、一番最後が30年後だったら私ももう生きていない。そうかといって、自治会活動、隣近所の付き合い、コミュニティの創生とかやっていかないといけないと思った時に、第5次総計に入っているが、世代を超えて地域を越えてまちづくりをしていかねばならないとうたわれている。団地の中で一番稼げる世代が住むことができない。高収入の方は市営団地から出て行って下さいという案内がくると。これは国からの努力目標ですね。義務ではないですね。違っていたら言っていただきたい。

市長：団地を出て行ってくださいと？まず最初、入所するときの資格というのがあり、所得これ以上の方は入れないというのはある。一度入って、所得に応じての家賃になっている。私が聞いているのは、ある程度の所得以上になるとマンションを買った方が安い、負担が少ないとなるので、市営住宅から引っ越ししていかれる方があると。国からの規制というのは聞いたことがないので、ちょっと調べるが。

市民：団地に住んでいる方でこどもの給料が上って、家賃がどんと上がって大変だと。そういう話が。こどもの所得が上がったと。努力して成功されて所得が上がった。こういう人は地域の宝です。将来の自分で住んでいる土地を考えて、何かやっていきたいとか、この地域に祭りやだんじりもありますし、寄付もしていけるのに、毎年のように高額所得ですから、という案内が入るとそれが来るだけでいややと。出ていくことを考えてしまう。世代を超えて地域を越えて、改良住宅と言う地域の福祉事業があるが、地域のコミュニティ創生のために、高額所得であっても努力される方は地域で頑張ってくださいという条例を、国からの高額所得の人も残れるような一文が条例化されると、この地域の発展につながっていくかと思う。

そして、こどもが少ない。うちの下の子どもも小学校2年で、15人と。少ないなあと話していた。前は2、3クラスあったが、今年は15人入る予定で、入ったのは9人だけ。来なかった6人の方はこの地域に住んでいながら、幸小学校に来なかった。私学の小学校に行かれた。小学校は幸小学校へ行って将来が楽しみだといえる小学校の有り方があるのではと。個人的な考えだが、建て直すまでの間に我々のやれることが沢山あるのではないかと。行政と協力しながら進めていくべきと思う。団地協議会があるが、団地役員は出るが行政の方の参加がない。団地のことどうしていくかという話しあいだが、住宅センターも建築住宅課の方も出てこれない。将来こういう団地を作っていきたいと、コンサルでも入れて、モデル計画でも住民の意見を入れて作っていきたいと。年間30万でもいいから、その部分も行政が10万でも20万でも補助してくれたらいいかと思うが、一緒になって考えていけたらという話

になればいいかと思う。団地協議会を監視するのではなくて、一緒になって何百億円という建て替え事業をするのだから、一緒に考える場があってもいいと思う。市長にご意見いただけたらと思う。

特に小学校で IT が特別教育できるような小学校で、小学生でもプロ並みの事ができるという小学校だというと、別に和泉中央でなくても、この和泉市内からトップの小学校にしてもらったら、こどもが増えるだろうし、「あの小学校出た人があの有名なアニメーターだ」となったら、地域の人にとっても勇気の出る話になると思う。こどもが減った、減ったというのではなくて、呼べるような施策を共同で考えていければと思う。

市長：住宅建て替えに関しては、住宅ストック計画を立てたが、29年度もう一回見直し、29年度和泉市市営住宅長寿命化計画というのを立て、その中で建て替え計画を見直す。30年はかけられないと思うし、大体40~45年くらいたっていて、耐震化も満たしていないので、早い時期に建て替えを進めていこうと、20年くらいの全体計画になっていくかと思う。まちづくりの意見交換は、今でもいろいろさせていただいているが、幸王子まちづくり協議会では全体的なまちづくりの事を議論する場なのか、というのがあるが。地域の方々のご意見もいれて、大きな話で、コンサルも入れてと、当然考えて行く必要があるが、それはまた相談させて頂く。意見の集約は必要。

教育については、魅力ある教育ということでそれぞれの地域で取り組んで頂いているが、教育の質を上げることが町の非常に大きな魅力になる。これらに取り組んでいくし、すでに南松尾はつが野学園で検証していきながら、施設一体型がいいのであれば、富秋中学校区もそういうものを作るという議論もさせて頂けたらと。具体的なことは何も決まっていないが、いろんな可能性を模索しながら、改良住宅、幸校区のまちづくりは進めていく。期間は大体20年。和泉市全体で、幸の事ばかりやるというわけにもいかず、事業も大きくなる。北信太の駅前線も鶴山台から駅へ行く道もだいたい15年位で作りたいと思っているが、事業費が26億円位かかると。和泉市が非常に豊かな、箕面とか、ディズニーランドがある浦安市みたいな市ならいいが、今の所すべての事業を一気に進められるという状況ではない。住宅の耐久年数があるので、しっかり検証しながら進める。必要な部分、愛されるまちづくりが重要。阪和線駅沿いは、上町断層が走っていて、倒壊する危険性が高い地域なので、来年度計画を見直していく。

市民：地域の課題の3番の市営住宅建て替えに伴う総合的なまちづくりに、要望、お願いだけしておく。市営住宅の建て替えや耐震化が始まると、余剰地が出来てくると思う。すでに地元の幸幼稚園の廃園、旭稚園の廃園、公共施設の廃園が続き、余剰地ができている。学校もどうなるかわからないが、富秋中学校区でも、池上小、幸小、富秋中学校の一体化ともなれば、その辺の土地も余剰地としてでてくるのかと。そ

の時に、市の方で余剰地だからすぐに処分、売ってしまえということではなく、地元にとっては、もともと福祉施設・教育施設があったところなので、住宅を建てて頂くのはいいが、どんなわからない業者や公害を出すような工場とかには売って欲しくないという思いもある。地元の自治会、団体のしっかりとした合意了解をとっていただいて進めて頂きたい。要望する。

市民：空き店舗、空き住宅、建て直しが始まってきたらそういう空き住宅の所を DIY、自分で部屋の中をやりなおして住んでもいいよという、使い方・活用できるような。空き店舗も用途が決まっているが、地域福祉のために空き店舗を活用できるような、たとえば組合が管理するとか、市が補助してくださるとか、やわらかい形での活用を考えていただければ。

市長：その辺は詳しくないが、地域の方々のご要望も聞きながら進めていく。